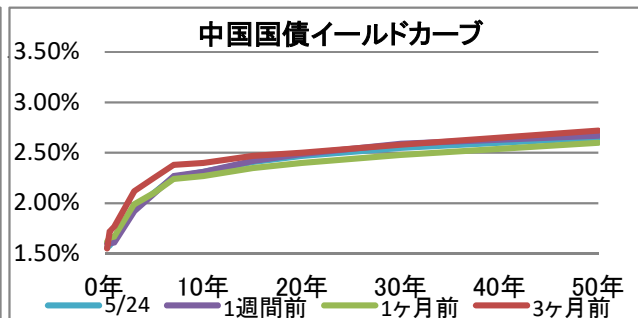
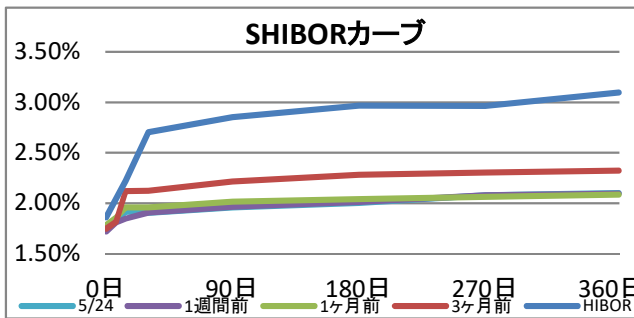


基準レート		2024/5/24	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	7.1102	+0.0057
	JPY/CNY	4.5615	-0.0344
SHIBOR	3M	1.9580%	-0.0050%
国債利回り	10年	2.31%	+0.00%
上海総合指数		3,088.87	-65.16



(1) 概況

国際金融市場では、FRB高官の相次ぐタカ派発言やFOMC議事要旨の公表、市場予想を上回る経済指標を受け、債券利回りは上昇に転じたものの、株式市場はハイテク関連が史上最高値の更新を続ける一方、前週に高値を更新したNYダウは、調整から下落に転じ、為替市場ではドルが強含む展開となった。

中国金融市場では、前週公表された不動産支援策への期待は続かず、G7財相会合等での対中摩擦激化懸念に加え、台湾海峡での中国の軍事演習による緊張感の高まり等から株式市場は下落に転じ、債券市場は需給悪化懸念と安全資産需要が均衡する格好で横ばい推移。外為市場では、世界的なドル高基調と地政学的リスクから7.24元台となる元安が進行。

中国では、習主席が企業経営者等との会談で、中国式現代化の推進に向けて全面的な改革を更に深化させる方針を示し、李強総理は日中韓サミットに先立つ岸田首相との会談で、「相違点を適切に管理し、新時代の要求に合致した建設的で安定した中日関係の構築に努める」と言及し、何立峰副総理は地方政府金融弁公室責任者会議で、不動産、地方政府債務、地方中小金融機関等のリスク防止・コントロールを適切に実施するよう指示し、サウジアラビア財務相との会談では両国間の経済貿易協力を深める方針を示し、丁薛祥副総理は、中東湾岸協力会議諸国とのフォーラムで、クリーンエネルギーやデジタル経済等の新分野での協力強化方針を示した。国家金融監督管理総局・李局長は、地方視察の際に、不動産リスクの防止、地方債務の抑制、中小金融機関の改革において国と地方の連携強化の必要性を強調し、中国人民銀行は、最優遇貸出金利の据え置きを決め、HKMAと共に香港居住者によるデジタル人民元決済等の試行運用を開始し、証監会の方副主席は、欧州での投資家との会合において、中国株式市場への投資を奨励。この間、海外投資家による4月の中国債券保有高は8か月連続で増加し、中国のグリーンボンド発行額が2年連続で世界首位となった。この間、不動産関連では、地方政府の土地売却収入が8年振りの低水準となる中、不動産大手・碧桂园の清算審理について、香港裁判所が6月に延期したほか、不動産大手・万科が、大手銀行等から融資枠供与を受けたとの報道があった。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日120億元に対して、リバースオペ100億元を実施し、20億元を吸収。

(3) 主な経済指標

・特になし。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.7660%	1.7660%	1.7800%	
1W	1.8180%	1.9200%	1.7800%	1.6000%
2W	1.9170%	1.9000%	1.8900%	1.7500%
1M	1.9050%	2.2500%	1.9000%	1.7800%
3M	1.9580%	2.1000%	2.0000%	1.9000%
6M	2.0010%	2.1900%	2.5500%	1.9700%
9M	2.0800%			2.0800%
12M	2.1000%			2.1000%

政府から住宅市場支援策が公表される一方、外為市場では元安が続く中、中国人民銀行はLPRを据え置いたものの、資金余剰が続く市場では実質的に中立な資金調節を継続することで金利を低位に維持。ターム物の調達ニーズは限定的となっている。

NCD市場では、LPRが据え置かれ金利の低下余地が限定的となる中でも積極的な発行が続いており、金利水準は概ね横ばいでの推移となった。ターム物金利は、1ヶ月は1.7%台半ば、3ヶ月は1.9%前後、6ヶ月は1.9%台後半、1年が2.1%前後での取引が続いた。

(2) 米ドル資金（本土内）

	BID	OFFER
ON	5.43%	5.44%
1W	5.45%	5.48%
1M	5.60%	5.65%
3M	5.67%	5.75%
6M	5.75%	5.85%
12M	5.85%	5.95%

中国国内市場では、利下げ時期を見極めたいとの思惑が強く、ターム物の出合いは限定的となっており、ターム物の金利水準は、1ヶ月が5.65%前後、3ヶ月が5.7%前後で出合っている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.56%		1.81%	1.99%	2.15%
6M	1.58%		1.92%	2.03%	2.19%
1Y	1.64%	1.80%	2.04%	2.08%	2.23%
3Y	1.94%	2.08%	2.23%	2.27%	2.43%
5Y	2.10%	2.21%	2.31%	2.42%	2.62%
10Y	2.31%	2.49%	2.58%	2.68%	3.10%

米国債券市場は、FRB高官が利下げへの慎重姿勢を示す中、経済指標が景気の底堅さを確認する内容となったことから、過度な楽観が剥落する格好で利回りが小幅な上昇に転じている。中国債券市場では、金融政策に変更がなく、国債増発が重しとなる中、足下資金需給は安定しており、利回り低下余地が相対的に大きい中長期の信用債を中心に買いしつかりの展開。この結果、10年米国国債利回りは4.46%（前週末比+4bp）への上昇に転じ、10年中国国債利回りは2.31%（同±0bp）と3週連続で横ばいとなり、利回り差は215bp（同+4bp）と小幅ながら拡大に転じている。

中国債券のイールドカーブは、歴史的な低水準（債券価格は高値）にあって金融政策に変更がなかったこと等から、低下余地のない短期ゾーンが下げ渋り、信用債の中長期を中心に利回りの低下が続いたことから、フラットニングに転じたものの、クレジットスプレッドの縮小傾向は続いている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1M	-231.0 / -230.0
3M	-702.0 / -701.0
6M	-1,453.0 / -1,451.0
9M	-2,200.0 / -2,195.0
12M	-2,898.0 / -2,895.0

対ドル基準レートは7.1102と前週末比+57pipsのドル高元安、対円基準レートは4.5615と同-344pipsの円安元高と、対ドルで大幅な元高水準での設定が続いている。中国国内市場では、前週に政府が発表した不動産支援策の効果に対する懐疑的な見方から元安となる中、ドル高と中国からの資本流出懸念を材料にじりじりと元安が進む展開で、7.24台半ばで週末を迎えている。

先物は、米金融政策が長期間高め維持となる懸念が高まり、金利差が拡大するとの思惑からディスカウント幅は一段と拡大しており、1年物は-2900前後に拡大する展開。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	1.87%		1.65%
6M	1.87%	1.96%	1.66%
9M	1.87%	2.00%	1.67%
1Y	1.87%	1.99%	1.64%
3Y	1.93%	2.05%	1.75%
5Y	2.07%	2.20%	
7Y	2.18%	2.30%	
10Y	2.26%	2.38%	

金利スワップ市場では、債券利回りが中長期を中心に低下を続けたから、スワップ金利は短期で上昇気味となる一方、中長期では低下を続ける格好でフラットニングしており、債券利回りとの差であるスワップスプレッドも中長期で小幅ながら縮小が続けている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入